

様式 7 (Form 7)

学 位 論 文 要 旨

Dissertation Abstract

学位請求論文題名 Dissertation Title

THE SOCIO-ECOLOGICAL LINKAGES FOR SUSTAINABILITY:A Research on Traditional Ecological Knowledge of Hmong People Living in Dong Van Karst Plateau, Ha Giang, Vietnam

(和訳または英訳) Japanese or English Translation

持続的発展のための社会と環境のリンク：ベトナム・ドンヴァン・カルスト高原に暮らすモン族の伝統的環境知識についての研究

Human and Socio-Environmental Studies 専 攻 (Division)

氏 名 (Name) Nguyen Ngoc Minh

主任指導教員氏名 (Primary Supervisor) YOICHI NISHIMOTO

(注) 学位論文要旨の表紙

Note: This is the cover page of the dissertation abstract.

SUMMARY

The socio-ecological linkages for sustainability: A Research on Traditional Ecological Knowledge of Hmong People Living in Dong Van Karst Plateau, Ha Giang, Vietnam

Nguyen Ngoc Minh

This study focuses on the system of traditional ecological knowledge (here after called TEK) of Hmong people living in Dong Van Karst Plateau, Ha Giang, Vietnam. During the period of 2016-2018, I conducted many fieldworks in this area in order to identify the adaptation to the rocky environment based on the TEK system of local Hmong people there. Dong Van Karst Plateau is well-known for the extreme harshness of its living conditions characterized by the severe climate and the serious shortage of farmable lands and water. Noticeably, Hmong group here have managed to overcome the difficulties of living on karst plateau area by generating a set of TEK to adapt to the rocky environment. It can be asserted that TEK undoubtedly is the key for the survival of Hmong community here, that can be seen in many aspects of their life: agriculture, constructions, rituals, traditions, and so on.

In this study, I employ the TEK theory of Berkes (2008)¹, an approach to TEK of many analysis levels. The research suggests that TEK is not a simple body of knowledge on rock resource usage and management, but also a knowledge that evolves, integrates and crystalizes in the social mechanisms of Hmong society. There is a 'socio-ecological linkage' arising from the reciprocal interactions between TEK and such social mechanisms as knowledge transmission, mechanism for cultural internalization, and Hmong cosmology. It is the socio-ecological linkage that contributes to maintaining the sustainability in the way that Hmong people utilize and

¹ Berkes, Fikret., 2008, *Sacred ecology*, New York: Routledge.

manage the rock resource. It is important to note that in 2010, Dong Van Karst Plateau was designated by UNESCO as an official member of the Global Geoparks Network, a designation that brought about an environmental stress to the Hmong community with its restrictions on all exploitation and utilization activities of rock resources for the protection of the natural landscape. However, thanks to the socio-ecological linkage, Hmong people could adapt and overcome the stress in a sustainable manner.

Finally, the research considers TEK from a 'cultural resource management' perspective and proposes methods to preserve and promote TEK in contemporary context.

Key words: Hmong people, traditional ecological knowledge, sustainability, cultural resource.

学位論文審査報告書

平成31年1月22日

1 論文提出者

金沢大学大学院人間社会環境研究科

専攻 人間社会環境学専攻

氏名 Nguyen Ngoc Minh

2 学位論文題目（外国語の場合は、和訳を付記すること。）

The Socio-Ecological Linkage for Sustainability: A Research on Traditional Ecological Knowledge of Hmong People Living in Dong Van Karst Plateau, Ha Giang, Vietnam（持続的発展のための社会と環境のリンク：ベトナム・ドンヴァン・カルスト高原に暮らすモン族の伝統的環境知識についての研究）

3 審査結果

判定（いずれかに○印） ☒合格 ・ ☐不合格

授与学位（いずれかに○印） ☒博士（社会環境学・文学・法学・経済学・☒学術）

4 学位論文審査委員

委員長 西本 陽一 ☒

委員 鏡味 治也

委員 正木 響

委員 中島 弘二

委員 田村 うらら

委員

（学位論文審査委員全員の審査により判定した。）

5 論文審査の結果の要旨

本論文は、文化人類学的なフィールドワークによる、ベトナム・ドンヴァン・カルスト高原に暮らすモン族の伝統的環境知識（TEK）に関する研究である。ドンヴァン・カルスト高原は厳しい気候で、農耕地と水とが乏しい過酷な環境の地であるが、モン族住民は当地の岩ばかりの環境に適応するために独特の TEK を構築し適応してきた。この TEK は農業ばかりでなく、建築、信仰、儀礼、コスモロジー、価値観など生活のあらゆる面にわたる一つのシステムであると著者は主張する。

第一章は、問題の所在、研究の目的、先行研究レビュー、理論的な枠組み、研究対象の規定、論文の構成についての各節からなる。本論文は、過酷な環境の中で生きるモン族の TEK および TEK と文化面（建築、儀礼、コスモロジー、文化継承等）との関係を、Berkes の TEK 概念を理論的枠組みとして、文化人類学的フィールドワークにより明らかにし、持続可能な発展のために貢献しようとするものと述べられる。

第二章では、ドンヴァン・カルスト高原ジオパーク、当地のモン族、調査村落について記述した各節からなる。中越国境近くに位置し、2010 年には UNESCO 世界ジオパークネットワークのひとつに登録されたドンヴァン・カルスト高原の地理的条件と民族構成について述べられたのち、当地のモン族の歴史、下位集団分化、文化的特徴について記述され、最後に調査村落の基本情報が提示される。

第三章は、ドンヴァン・カルスト高原のモン族住民が発達させてきた TEK についての章である。1 節で著者は、調査村に見られる種々の岩石について学名と民俗名について述べる。2 節では、希少な耕作地の管理、希少な水資源の管理、岩がちな環境での農業、日常生活における岩石利用について記述される。

第四章は、TEK の世代間継承、TEK に関わる信仰と儀礼およびコスモロジーと価値観についての章である。1 節で著者は調査地のモン族による TEK の継承を、1. 環境に慣れる初期、2. 実際活動による学習期、3. 本格的な訓練期の三段階に分類し、それぞれ 0～5 歳、6～10 歳、11～15 歳にモン族の子供が TEK を獲得してゆく様子を描く。2 節で著者は、岩石に関わる調査地のモン族の信仰と儀礼の数々を紹介し、これらの信仰と儀礼の実践が TEK の継承につながっていると主張する。さらに 3 節で著者は、岩石に関わって当地のモン族住民のあいだに独特の世界観が見られ、さらにその世界観が共有や互酬性などの価値観を発達させたと述べる。

第五章は、予備審査での指摘によって新たに書き加えられた、TEK の近年の変化に関する章

である。2010 年の UNESCO 世界ジオパークネットワークへの登録とそれにとまなうベトナム政府の資源管理に関する政策は、調査村住民の伝統的な TEK に変化を迫るものとなっている。かつてのような自由な岩石利用が制限される中で、近代化（工場製品の利用や農業の近代化）や観光開発も村落生活に影響を与え、伝統的 TEK も変化しつつある。さらに伝統的 TEK が口伝であること、近代的な生活で利用価値が減ったこと、子供たちからの関心が低下したことなどにより、伝統的 TEK は消滅の危機にあると著者は論じる。

「議論と結論」と題された第六章で著者は、TEK は調査地のモン族住民が長い期間に過酷な自然環境に適応しようとする中で発達させた知識システムだと再確認した後で、その伝統的 TEK がいつの時代にも通用するものではなく、変化や消滅の可能性をもつものだと述べる。最後に著者は、そのような伝統的 TEK を持続可能な形で発展させるためには、地方政府との協力の下でジオパークとしての観光開発を進めるほか、TEK を書き記し、科学者との協力の下で保全してゆくことが重要だと主張する。

本論文は、序章、調査地の紹介（The Settings）、TEK システムの概要、文化面での TEK、TEK の変化、分析と結論と、論文として論理的な構成をもっている。著者はモン語も学び、数次にわたるフィールドワークにおいて、岩石についての民俗名称を収集し、岩石の具体的な利用法のほか TEK に関わるモン族の農業過程、伝承、儀礼、信仰についてデータを収集し、住民自身の声を論文の中に引用しながら提示している。新たに書き加えられた第五章と結論を述べる第六章における、著者の TEK についての評価と見解について一貫性が失われた部分があるものの、問題設定、文献・現地調査、調査結果の提示、分析の各過程において、学問的な方法論に忠実な記述をおこなっており、博士学位論文の水準を満たすものと審査委員は判断した。